
ヤト

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヤト

【Nコード】

N24790

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

ううむ。あらすじはないです。書きたいことを書きなぐっただけ。

（前書き）

前書きはスイス銀行に振り込んだ。

ヤトは、プリン県にある、とある工場に勤務していた。

いきなりだが、ヤトは病気を抱えていた。

同じくプリン県で、ライスという、バイトをしながら小説を書いている男はそのことを雑誌で読み、心配になってきた。ヤトのファンなのだ。

てか、結婚したい。そのヤトが病気だとは。最近も入院したばかりだという。

いたって健康体のライス。ヤトのために何かできないだろうか。

しかし、バイトなので金銭的なことは無理だ。

そんなわけで、ライスは小説を書き上げるたびに、ヤトの住むアパートのドアの投函口に投函した。新人賞よりこっちのが大事である。ヤトがいないと書いてる意味がない。ヤトが少しでも元気になる小説を書く。

貧乏なライスにはそれしか道がない。

雑誌を開くと、たまにヤトがライスの小説を誉めてくれる。ライスは照れて書いてよかったなあと思う。

人のために書くのがこんなにも嬉しいことだとは。

ライスは来る日も来る日も小説を投函した。

そんなある日、ヤトが職場で倒れたというニュースをテレビで観た。がんばりすぎなのがヤトのいかんとこだ。

いいところもあるが。

見舞いに行きたいが、あまりそういうのはいかん。ファンとしての分をわきまえなくてはならない。

ヤトのことが気になって気になって飯ものを通らない。ただ、小説は書き続ける。

ヤトは安静にしてたら回復してきたようだ。新聞に載っていた。ヤトが元気に職場で働いてるというニュースはこの暗い世の中で本

当に救いである。ヤトは我らの天使であった。

ライスはヤトと実際に会うことができないので、ヤトの友達のアキさんのところへ行き、いろいろ情報を聞いた。いわゆる、ストーリー！。

すでに晩飯時で、旦那さんはまだ帰ってなかったが、息子のハルとケイが飯を食っていた。

「ライスおじちゃん、なんだよあれ。最低だよ。主人公に通り魔させちまうなんて」

「バカだなハルは。あれは必然性があつたからああなつたんだよ。ね。ライスおじちゃん」

ケイは弟のくせに兄を呼び捨てする。二人は実に小説をよく読む。だからライスの作品に厳しい。しかし、誉めるところは誉める。

ハルはハートフルコメディが好きで、ケイはダークキューモアが好きという違いがあるのだが、共通して「ライスおじちゃんの小説は笑えるけど文学性が薄い」と言う。当たってるだけにいまましい。ライスも晩飯を呼ばれる。

「ライスおじちゃん。ヤトさんの少年野球小説に出てくる野球少年、きつとオレがモデルだよねえ」

「おいハル。愚かなことを言うな。するってえと、野球少年のすぐに暴力をふるう弟がオレってことになるじゃねえか」

「当たってるやん！」

みんなでははと食べたあと、アキさんだけ元気ない。

「どうしたの。アキさん。暗いね」

「ヤトちゃんの野球少年で、ハルっぱいやつのお母さんが犯罪して刑務所に入ってしまっただろ。それがいやでいやで」

「ああ。あれか。ハルっぱいやつが監督にいじめられたから、アキさんぽい女性が監督を金属バットでフルボッコにして逮捕されたんだよね」

「いくら小説だからってあたしや悲しいよ」

「まあでもヤトも面白くしようと必死なのよ、きつと」

「胃が痛いよあたしや」

その夜、ライスは泊めてもらった。

ハルの部屋でライスは寝転びながら、原稿用紙に書きまくる。

「ライスおじちゃん。オレ明日早いからもう寝るよ」

「うん」

ヤトががんばってるからオレもがんばらないといけない。ヤトが好きだからがんばらないといけない。別にがんばったところでヤトの病気が治るわけじゃないけど、ギャグ小説を書けばヤトの気持ちが多量軽くなると確信してる。

結局、ライスは寝ずに書きまくり、そのまま朝、ヤトのアパートへ行き、投函した。ベランダに干してあったパンツ盗んでこうかなあと思ったが我慢した。

ヤトは今日もがんばってる。理由なんて知らない。がんばってる。ただそれだけ。

（後書き）

後書きは、後書きライターに任せているが、先週食中毒で死んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2479o/>

ヤト

2010年10月11日04時47分発行